

体育授業において主体性を発揮している子供の顕在化を目指して —主体性判断シートの作成—

鎌田 祐美加 (鳴門教育大学)

1. 目的

本研究では、主体性の定義を用いて、授業観察を行い、体育授業における子供の主体性を発揮している姿は、具体的にどのような姿であるのか明らかにすることを目的とした。さらに、主体性判断シートを作成し、今後の教育活動に活かすこととした。

2. 方法

1) 対象者

徳島市K小学校5年生(ゴール型ゲーム, リズムダンス)

徳島市F小学校4年生(ネット型ゲーム)

徳島市S小学校5年生(ベースボール型ゲーム, マット運動)

2) 調査方法

体育授業の観察を行い、授業記録を作成した。また、ビデオカメラで子供の様子を撮影し、補充データとして収集した。

3) 分析方法

分析には、KH Coder(樋口, 2001)を使用した。子供の学びの様子をテキストデータ化し、コマンドの1つである共起ネットワークにかけ、データの中心性を明らかにした。さらに、抽出された語の前後の記述を見るために、KWIC コンコーダンスコマンドを用いて、共起ネットワークの解釈を補完した。

3. 結果と考察

1) 分析結果

抽出した子供 28 人分の結果の中から紙面上の都合上、徳島市F小学校4年生ネット型ゲーム、キャッチバレーボールの授業(第8時)を取り上げる。共起ネットワークでは、「ボール」「相手」「落とす」という言葉が強い関係を示し、「落とす」という言葉の中心性が高かったことから、「ボールを落とすこと、ボールを落とされないことを意識していた。」と解釈した。「落とす」という言葉の前後の記述の中に、『相手がいない場所へボールを落としていた。』という記述があった。これらから、自分や相手の状況を理解し、プレーを変えていた姿を主体性が発揮されていると解釈した。

2) 考察

主体性は、様々な場面で、様々な状況で発揮されていた。子供は、めあてや課題の理解により、自らの学び方を考え、自己理解を深めていた。「自己理解」は、教師や友達への状況伝達に繋がり、自ら考え挑戦することを促していた。さらに、主体性発揮において、「教師や仲間との関わり」は、挑戦意識を高め、「めあての共有・確認」は、思考を深め、「環境設定」は、挑戦の選択肢を増やしていることが分かった。

3) 主体性判断シートの作成

平山(2021)の主体的に学んでいる状態の5つの要素「①興味関心②見通し③自己との関連付け④粘り強さ⑤振り返り」と、上述の考察より「めあてや課題を理解している」「自分の状況を理解しようとしている」「自ら考えて挑戦しようとしている」の3観点と観点毎の子供の具体的な学びの姿から作成を行った。

表1 主体性判断シート

主体性判断シート	
めあてや課題を理解している。	☐ めあてや課題について、理解している。
自分の状況を理解しようとしている。	☐ 自分のできていること、できないこと、上手いこと、下手なことを理解できている。
	☐ 教師や友達に自分やチームの動きや課題、できたことを伝えることができる。
	☐ 自分ができたこと、できないこと、上手いこと、下手なことへの原因を理解できている。
	☐ (友達の動きを見たり友達の動きを真似したりするなど)
	☐ 自分やチームの動きを振り返ることができる。
自ら考えて挑戦しようとしている。	☐ (動画を観たりお手本と見比べたりする。)
	☐ 新しい作戦を考え、実践している。
	☐ 作戦を見直し、もう一度実践している。
	☐ 状況に合わせて、動きを変えている。
	☐ 失敗したことから、自分の動きを工夫することができる。
	☐ 目標や課題を持って、挑戦することができる。
	☐ 自分なりの方法を見つけ、挑戦することができる。
	☐ 自分の状況や課題に合った場を探そうとしている。
	☐ 作戦や場にあった動きをすることができる。
	☐ 友達に自分なりに教えたりアドバイスを貰ったりしている。
	☐ 相手の立場になって考え、動きを変えている。

4. 結論

総じてみると、挑戦の結果のみで子供の主体性を捉えることはできないことが明らかになった。そのため、主体性判断シートでは、子供との関わりを通して、「どのように挑戦したのか」という過程を記録する必要がある。「主体的な学び」の実現には、「教師や仲間との関わり」「めあての共有や確認」「環境設定」を子供の状況に応じて工夫することを意識し、授業作りや授業実践を行うことが重要である。

〈参考文献〉

- 1) 平山達也(2021) 主体的な学びについての一考察, 立命館文学, 670号, pp.82-84